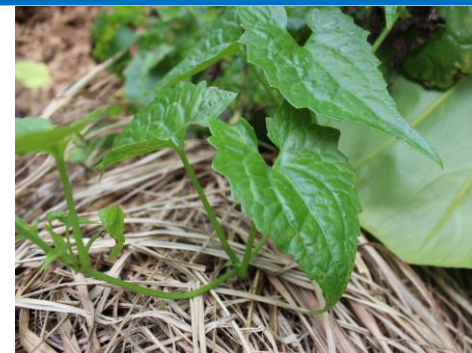


事業の背景・目的

やんばる地域の南にあたる名護市内にはまだ手付かずの自然があり、リュウキュウヤマガメをはじめとする多様でユニークな生物がたくさん生息している。ツルヒヨドリは名護市では平成28年頃に発見され、その驚異的な繁殖力で市内の自然環境に影響を及ぼすことが懸念されている。しかしながら市民の関心や理解度が低く、このままだと名護市内で分布拡大するだけでなく、世界自然遺産の候補地である北部地域へ分布拡大を引き起こす恐れがある。本事業により、名護市におけるツルヒヨドリの効果的な防除実施計画を策定するとともに、市民に侵略的外来種の実情を理解してもらい、また名護市の自然の大切さを見直してもらう機会をつくり、住民主体でやんばる本来の自然を保全する仕組みをつくる。



事業の内容

名護市におけるツルヒヨドリ防除実施計画の策定

- ・現状把握 : 3次メッシュマップの作成
- ・検討会開催 : 必要事項の検討
- ・試験的防除 : 防除試験の実施
- ・実施計画策定 : 実施計画の策定

得られた成果

- ・現状把握 : 基礎情報に基づき目視調査し、確認した場合は、情報（位置情報・生育面積・生育環境・生育地地形・周辺外来植物被度・生育地区分・字名）を記録し三次メッシュマップ（調査カバー率60%）を作成した。
- ・検討会開催 : 有識者、地域住民、関係機関で構成された検討会を3回開催し、実施計画策定に必要な事項を検討した。
- ・試験的防除 : 人力・機械・農薬を用いて試験防除を行った。また、農薬の分量（濃度）別の効果、防除に係る日数を観察し、知見を得た。結果、作業環境を整える目的で農薬は使用し、その後の防除は基本的に人力で行うこととした。
- ・実施計画策定 : 計画期間内（5年）の年次防除目標、市内への新たな侵入を早期に発見できる体制、生育情報を反映するシステム、これらを基にした効率的かつ効果的な防除が実現できる実施計画を策定した。